

文学部 歴史学科（3つのポリシー）

教育の理念

文学部歴史学科は、建学の理念である「仏教」の教えと「禅」の精神に則り、人間に関わる人文諸学の「智」に基づき、人間の本質の理解および社会の諸問題の解決に取り組むことで、社会に貢献できる幅広い教養と専門性を身につけた人材の育成を目的とする。

その理念・目的を達成するために、日本史学、外国史学および考古学のそれぞれの専攻において、「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、史資料の読解やフィールドワークなどをはじめとする教育を推進する。その過程で十分な基礎力・実践力を身につけると同時に、その能力を広く活かし、最終的に多様な経験を踏まえ、主体的に社会に貢献することのできる有益な人材の育成を目的とする。また、しなやかで折れない心を持ち、持続可能な社会の発展に寄与する人材の育成を行う。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学部歴史学科では、教育の理念にもとづいて定められた下記の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、必要な科目を124単位以上修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（歴史学）の学位を授与する。

（DP1）建学の理念を实践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、広範で多様な人文学領域の基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有していること。未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができること。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲があること。

（DP2）幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

人文、社会、自然に対する文理を問わない豊かな教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）を修得し、歴史学の知識・研究方法を体系的に身につけていること。歴史についての幅広い知識や理解力を修得し、様々な現象に対する歴史的洞察力を修得していること。異文化として歴史を理解し、現代社会を客観的に理解する能力を身につけていること。

（DP3）課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

歴史についての広範な知識や理解力、人文、社会、自然に対する豊富な教養を修得し、さらに外国語の確かな運用能力と異文化を理解する力を身につけていること。また様々な現象に対する歴史的洞察力を修得していること。そこから知識・技能やICT（情報通信技術）

を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、専門分野の知識を活かした解決策を見出すことができること。歴史学科が求める文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができること。

(DP4) 多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけていること。また異文化として歴史を理解し、現代社会を客観的に理解する能力を身につけていること。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、専門分野の知識を活用しながら、他者と協働して課題解決に取り組むことができること。広範で多様な人文学領域の基礎的知識を背景に、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけていること。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を 実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と 専門知識	◎	◎				○		
	DP3	課題解決力、表 現力			◎	◎	◎	◎		
	DP4	多様な他者を 尊重し、協働す る力					○	○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部歴史学科は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とし、学科において、文理横断的かつ専門的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。全学共通科目では、多様な教養科目をバランスよく履修することで学びの基礎を築くとともに、専門教育科目では専門性を高める。全学共通科目と専門教育科目の履修により、学生が多様性のある社会で自ら考えて他者を尊重し、協働しながら生涯にわたって主体的な学びを実践できるように教育課程を編成する。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 「宗教教育科目」としては、仏教の教えと禅の精神について理解を深めるため、座禅の実習を含む「仏教と人間」を必修科目とする。また宗教に対する正しい認識を身につけるために「日本仏教史」および「仏教史」を専門科目として開講する。(DP1)
- 2) 「教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）」は、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を育むことを目標とする。また、社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深めるために、「外国語科目」と英語以外の外国語も必修とする。

概説科目、史学概論を置いて専門教育への導入教育とし、各専攻に応じた歴史への興味を深めるような教育を行う。さらに専門教育への橋渡しとして、日本史学専攻では史学史、考古学専攻では考古学史を必修とする。

ライフデザイン分野「初年次教育科目」では、高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につけることを目標とする。1年次には専攻別の「新入生セミナー」と「基礎演習」を同一の教員が担当し、大学生としての基礎能力の育成から専門教育への導入までをシームレスに実施できるようにする。

ライフデザイン分野「キャリア教育科目」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力の育成を目標とする。(DP2)

- 3) 「保健体育科目」では、スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。(DP4)
- 4) 「駒澤教養パスポート（Komazawa Liberal Arts Program）」プログラムでは、「建学の理念科目」「複数言語教育、外国語教育」「数理教育、自然科学教育、情報教育」「多文化理解教育」「日本語リテラシー教育」「教養ゼミ」を配置して文理融合教育を行うこと

により、ディプロマ・ポリシーに掲げる課題発見力、課題解決力を身につけ、多角的な視点と豊かな技術力を有する人材を育成する。(DP3)

- 5) 専門教育科目では、6) から 8) までの各専攻における専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけるとともに、ディプロマ・ポリシーに掲げる課題解決力、表現力、多様な他者と協働する力などを総合的に育成することを目標とする。初年次には基礎・基本となる導入教育科目を、2年次以降には専門分野の知識を体系的に理解する講義科目、自らの知的好奇心を追求しこれまでに修得した知識を実践する演習科目と実験・実習科目を配置する。また、卒業年次には、学びの集大成として卒業論文の作成を行う。

(DP3)

- 6) 日本史学専攻では「史料講読」、「古文書研究」、「記録史料学」、外国史学専攻では「研究法」と「文献史料講読」により、史資料を調査し、読解・分析する能力を養う。考古学専攻では「考古学発掘実習」と「考古学実習」により、考古遺物や遺構、遺跡を調査・分析する能力を養う。(DP2)

- 7) 「時代史」、「各説」、「特講」などの講義科目により、歴史を広く深く研究していく専門的知識や歴史把握の方法を修得する。歴史に対する幅広い理解や知識を修得することを目的とし、これらの科目は専攻の枠を超えて受講できるように配慮する。(DP2)

- 8) 3年次の「演習Ⅰ」、4年次の「演習Ⅱ」により、史資料の読解方法を学ぶとともに、広い視野から洞察できる歴史的感覚、思考力、応用力を養い、自身の問題設定にもとづいて卒業論文を執筆する準備を行う。演習での個人発表により、自己の考えを的確に表現する能力、討論からは異なる意見を理解し、真の歴史像を構築していく能力を養う。最終段階の「卒業論文」では、自ら設定した問題の解答を導き出し、それを的確に表現する能力を身につける。なお、考古学専攻では「考古学発掘実習」において、協働性を発揮して報告書を作成する能力を養う。(DP3)

2. 教育方法

- 1) 入学年度の4月に新入生研修旅行を実施し、教員・学生間の親睦を深めるとともに、実際に史資料に触れることを通じて、歴史学科での学びへの円滑な導入を図る。

- 2) 「新入生セミナー」、「基礎演習」、「研究法」、「演習」においては、原則として少人数制のもとで担当教員による手厚い指導を行う。また、積極的に探究型学修やアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。

①1年次には、学科教員が担当する「新入生セミナー」と「基礎演習」を配置し、導入教育を行う。加えて、基本的なICT教育も行う。

②2年次には、各専攻に以下の科目を置き、史資料を取り扱う能力を養成する。日本史学専攻：「日本史史料講読」、「古文書研究」、「記録史料学」。外国史学専攻：「東洋史学研究法」、「西洋史学研究法」、「文献史料講読」。考古学専攻：「考古学発掘実習Ⅰ」、「考古学実習（写真）」、「考古学実習（実測）」、「考古学実習（情報）」。

- ③3年次には、各専攻とも「演習Ⅰ」を必修科目として配置し、実際の研究を通して、それぞれの専門分野における知識および思考法などをアクティブ・ラーニング形式で学ぶ。また、考古学専攻では「考古学発掘実習Ⅱ」を必修科目とし、発掘の方法論を実地で学ぶ。
 - ④4年次には、各専攻とも「演習Ⅱ」を必修科目として配置し、卒業論文執筆のための指導を行い、歴史学・考古学を研究する能力の向上を図る。
 - ⑤2年次以降に選択可能な講義形式の選択科目を配置し、様々な分野や時代についての知識や歴史研究の状況を理解させる。
- 3) WebClass等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
 - 4) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックなどを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
 - 5) アセスメント・ポリシーに基づいて、学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）	○	◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目	◎	◎	◎	○	高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○		○	◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目			◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目					○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目			◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。
	講義科目			◎			専門分野の知識を体系的に身につける。
	実験科目			◎			実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。
	実習科目			◎	○	○	専門分野の講義で身につけた知識を基に、実地調査や体験学習等を行う。
	演習科目				◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究・資格試験など		○	○	◎	○	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文の作成や資格試験の受験などを行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学部歴史学科は、駒澤大学入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 歴史学科の求める学生像

（AP1）駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、かつ歴史に対する旺盛な好奇心と自発的に歴史を学ぼうとする熱意を有している。また、本学科において4年間で修得した知識や技能を実社会で活かしたいという態度と目的意識を有している。

（AP2）入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

高等学校の基礎的な学力を身につけている。特に「国語」、「英語」の基礎的な学力を有している。さらに、高等学校の教育課程において、日本史や世界史などの地理・歴史科目のみならず様々な知識を幅広く修得し、大学において教養と専門の知識・技能を修得するための基礎的な学力を有している。

（AP3）課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

現代に生きる我々が抱えている課題について、その歴史的背景を考え歴史的な文脈に沿って理解し判断しようとする意識を有している。また、物事を多角的にとらえる柔軟な思考力と、根拠に基づいて考察・判断した結果を論理的に表現できる能力を有している。

（AP4）他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

国内外の文化・社会・宗教の違い、価値観の違いについて理解しつつ、自らの意見・考えを有し、異なる意見や価値観を尊重しながら、建設的に対話を進める能力を有している。また、これまでに修得した技能や経験を活かし、多種多様な個性を有する本学科において主体的に協働していく能力を有している。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

特に「国語（古文・漢文）」と「英語」については、高等学校レベルの基礎学力をつけておく。また高等学校の歴史教科を履修し、日本史、世界史および考古学に関する基礎的知識を修得している。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

身近な歴史に興味を持ち、史跡や歴史的建造物、博物館などを見学する。国内外の様々な出来事に関心を持ち、幅広い手段で情報を収集する。

多様な文化・慣習を有する人々を受け入れ、協力して活動する。

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

選抜区分		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	選抜制度の目的および特徴
一般選抜	全学部統一日程	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	T方式	筆記試験		◎	○		
	S方式	筆記試験		◎	○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
総合型選抜	自己推薦選抜 (総合評価型)	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的に、出願書類、小論文および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文等	◎	◎	○	◎	
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	自己推薦選抜 (特性評価型)	出願書類	◎	◎		◎	
面接・口頭試問		◎	○	◎	◎		
学校推薦型選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特に理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好な学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
	指定校編入学者選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的とする。また、多様な経験を有する学生受け入れにより、学内の活性化を図る。
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
その他選抜	社会人特別選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、実社会での豊かな経験を有し、高い専門性を取得した勉学意欲旺盛な社会人の受け入れを目的に、出願書類、小論文
		小論文	○	◎	◎	◎	
		英語		○			

		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	論文等、筆記試験等および面接・口頭試問にて判断する。
国際型選抜	出願書類		○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
	事前課題			◎			
	面接・口頭試問		◎	○	◎	◎	
外国人留学生選抜	出願書類		○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れを目的に、出願書類、「日本留学生試験」結果、小論文等、および面接・口頭試問にて判断する。
	日本留学試験 (成績)			○			
	小論文等			◎	○		
	面接・口頭試問		◎	○	◎	◎	
編入学者選抜	出願書類		○	○		○	本学の教育の理念を理解し、大学入学後の進路変更や学び直しを希望する学生、および多様な経験を有する学生を受け入れることを目的に、出願書類、小論文等、英語試験および面接・口頭試問にて判断する。